

令和8年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1 開催日時・場所

令和8年8月28日（金）10時30分～11時10分
江別市教育庁舎大会議室

2 出席者

・スポーツ推進審議会委員：10名

花井篤子会長、安保美幸副会長、渡辺圭委員、金山睦委員、安田敏昭委員、
梶野祐樹委員、竹内由紀子委員、佐々木千恵子委員、木谷琢睦委員、五十嵐拓也委員
（欠席：鵜飼裕子委員）

・教育委員会事務局

佐藤教育部長、廣田教育部次長、松井スポーツ課長、天野スポーツ課主幹、
茂木スポーツ課主査

3 開催結果

（1）委嘱状交付

佐藤教育部長から新任の渡辺委員、佐々木委員に委嘱状を交付。

（2）開会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

（3）あいさつ

花井会長、佐藤教育部長からあいさつ

（4）委員・職員紹介

（5）報告事項（1）令和7年度スポーツ関係事業実施報告について

- ・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ課主査）

資料の1ページをお開き願う。

はじめに、教育委員会が行った事業についてご報告する。まず、学校体育施設開放事業だが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、令和7年度は、

25小中学校を開放し、利用者数は延べ16万2,120人であった。

次の体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ2,721人であった。

また、体育施設開放事業（学校プール開放）は、夏休み期間中、15校の小学校プールを開放し、子ども達に利用してもらう事業であり、利用者数は5,175人であった。

次に、スポーツ普及奨励事業の、青少年スポーツ賞顕彰であるが、スポーツ賞は、高校生以下を対象にして、全国大会で3位以上を基準としており、5個人を表彰した。

スポーツ奨励賞は、高校生以下で全道大会1位を基準としており、20個人、13団体を表彰した。

教育委員会賞は、小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、10個人、7団体を表彰した。

次の、スポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会は、3個人と4団体に、全国大会は、55個人と11団体に、全道大会は、56個人と6団体に、それぞれ奨励金を支給した。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、江別第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。

スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、4,171万8千円を交付している。

次に、体育団体補助金は、江別市スポーツ協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業であるが、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、1件、26名を対象に実施した。

2ページをお開き願う。

トップアスリート交流推進事業は、市民がトップアスリートと交流する機会を提供する事業で、合宿に訪れる団体に対し、会場使用料の補助等の支援を行うほか、トップアスリートによるスポーツ教室開催に係る支援である。令和7年度は、フェンシングU20及びU17日本代表が大森体育館で合宿をしたことに伴い、フェンシング体験会の実施や、北海道コンサドーレ札幌などのプロスポーツ団体と連携し、市内の子どもたちを対象にスポーツ教室を開催したほかミラノ・コルティナ冬季オリンピックに出場した江別市出身選手を応援するため、パブリックビューイングを開催した。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、2

つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費である。令和7年度は、市民体育館相撲場の屋根の雪止め取付工事や森林キャンプ場の炊事場の柱の補強工事などを行った。

次の大麻体育館改修整備事業では、第2、第3体育室の床改修工事（サンダー掛け）を行った。

次に、特別支援学校フットサル大会開催支援事業では、道内の特別支援学校が参加するフットサル大会の開催支援を行うもので、JR野幌駅から会場である道立野幌総合運動公園まで選手を輸送するシャトルバスを提供するなどの支援を行った。

次に、体育施設の指定管理事業であるが、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて2億3,918万4千円である。

最後に、中学校部活動サポート事業では、教員に代わって部活動を指導する部活動指導員の配置や北翔大学の教員と学生が市内中学生に競技指導を行うスポーツ庁の委託事業である地域連携実証事業を実施し、部活動の地域スポーツクラブ化への実施体制について検証を行った。

なお、参考資料の1ページから5ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が令和7年度に実施した事業を参考に記載している。

ただいまご説明した指定管理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業などを行っているもので、詳細のご説明は割愛するが、事業内容は記載のとおりである。

（質疑等）

○花井会長

地域スポーツ活動活性化促進事業で行う軽スポーツとはどのようなものがあるのか。

○事務局（スポーツ課主査）

令和7年度は自治会からの要望を受けて、ペタンクの出前講座を実施した。

そのほか、フライングディスクやミニテニス、ハッピーボウリング、輪投げ、グリーンボールなど10種目のメニューがある。

（6）報告事項（2） 令和7年度スポーツ施設利用状況について

・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ課主査）

3ページをご覧ください。

令和7年度の利用者数であるが、屋内施設では、4体育館合計で、45万2,921人

と前年と比較して19,477人増加している。増加の主な要因としては、令和6年5月から実施した小中学生の体育施設における使用料の無料化が、児童生徒や保護者に定着し、リピート利用が年間を通して増加していることによるものと考えている。

屋外施設は、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であり、合わせて3万3,563人で、前年と比較して、1,089人減少している。

森林キャンプ場は、5,457人となり、前年と比較して1,550人減少している。

4ページをお開き願う。

あけぼのパークゴルフ場であるが、利用者数は3万2,902人で、前年と比較して7,331人減少している。

これらの減少の主な要因としては、森林キャンプ場やあけぼのパークゴルフ場の開設期間中、気温30℃以上となる日が前年度の12日から26日に倍増するなど、猛暑の影響により、屋外での活動を控える方が多かったことが利用者の減少につながったと考えている。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりである。

最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計は、69万8,018人となり、前年度から約3%の増となっている。

(質疑等)

○五十嵐委員

特設スケートリンクについて確認したい。帯広では、温暖化が原因でリンクが造成できず、小中学生のスケート授業の見直しについて最近報道されていたが、江別はどのような状況か。

○事務局（スポーツ課主幹）

特設スケートリンクについては、昨年度は年末にリンクを造成した後に、気温が上昇し、利用中止となる日が続いた状況になった。1月に入ってから気温がそこまで上がることはなかったので、最終的な開放日数としては例年並みとなった。

屋外の自然状況に左右される中で、コストがかかる事業を実施することについてはリスクがあると感じている。今後も費用対効果の面から事業の実施については検討していきたい。

(7) 報告事項(3) 令和7年度江別市スポーツ推進計画(第7期)推進状況について
・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ課主査)

資料の5ページをご覧ください。

第7期江別市スポーツ推進計画は、第7次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を令和6年度から令和10年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツ社会の実現を目指すために策定している。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクルの考え方に基づいて、点検・評価を行い計画に反映していくこととしているので、令和7年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、ご報告する。報告する内容については、太枠で囲まれた部分である。

「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、令和7年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。

トップアスリートとの交流については、北海道コンサドーレ札幌などのプロスポーツ団体と連携し、市内の子どもたちを対象にスポーツ教室を開催した。

また、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックに出場した江別市出身選手を応援するため、パブリックビューイングを開催し、市民がスポーツに親しみ、関心を深める機会を創出した。

週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は47.6%と前年度を上回る結果となった。

今後の方向性について、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、今後も、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていきたい。

資料の6ページをお開き願う。

「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であります。令和7年度は、地域スポーツ活動の活性化のためスポーツ協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。

各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は減少傾向が見られるが、多くの団体が全国・全道大会に出場するなど活発に活動している。

スポーツ機会が充足していると思う市民割合は75.8%となっており、前年度を上回る結果となった。

今後の方向性であるが、各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合

型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、地域スポーツ活動の推進を図っていききたい。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ施設の整備・充実」であるが、令和7年度は、大麻体育館の第2、第3体育室の床改修工事等を行い、スポーツ施設の環境整備に努めた。

市内の屋内体育施設は建築から40年以上経過したものが多いことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めており、スポーツ施設整備の満足度は70.4%と前年度を上回る結果となった。

今後の方向性であるが、令和8年度も市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行っていききたい。

(質疑等)

○五十嵐委員

全て前年度の数値を上回ることになったのは素晴らしいことであり、施策の効果が現れた結果であると思う。右肩上がりの目標を設定しているが、どこかで必ず打ち止めにはなると思うので、予算との兼ね合いもあるが数字が下がらないように引き続き取り組んでいただきたいと思います。

○花井会長

3つの成果指標の数値が上がっていることは非常に嬉しいことである。まちづくり市民アンケートの回答者は成人からの認識で合っているか。小中学生などの子どもの回答は入っているのか。

○事務局（スポーツ課主査）

アンケートの回答者については、18歳以上の市民5,000人となっているため、子どもたちは対象となっていないが、小中学生の保護者の方は対象となっているので間接的に意見が反映されているかと思う。

(8) 報告事項(4) 令和8年度スポーツ関係事業計画について

・スポーツ課主査から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ課主査）

資料の7ページをご覧ください。

まず、今年度において、教育委員会が行う事業であるが、ここでは前年度から内容変更のあった事業等を主にご説明させていただく。

表の上段、体育施設開放事業（学校プール開放事業）は、夏休み期間中、小学校プール

を児童・生徒に開放する事業であるが、令和８年度については、一部の学校においてプールの使用が休止となっていることから、代替施設である青年センタープールへの借上バスやタクシーによる送迎を行っている。

表の中段、トップアスリート交流推進事業では市民とトップアスリートが交流できる機会の提供として、市と連携協定を締結しているプロバレーボールチームの北海道イエロースターズによるバレーボール教室を実施している。

表の下段、市民体育館改修整備事業では、体育室２階の移動式観覧席の塗装工事を行う予定である。

また、中学校部活動サポート事業では、引き続き部活動指導員の配置を行うとともに、今後の部活動の地域展開の推進に向け、各学校やスポーツ・文化団体との調整役を担う部活動地域展開アドバイザーを任用している。

参考資料の６ページから９ページにかけては、江別市スポーツ振興財団が行う事業であり、指定管理事業、受託事業、補助事業について、それぞれ参考に記載している。

(質疑等)

○花井会長

中学校部活動サポート事業は、令和７年度と比べると予算が大きく増加しているが、これはどのような要因か。

○事務局（スポーツ課主査）

学校現場に精通している校長先生ＯＢの方を、各学校や関係団体との調整役を担っていただく部活動地域展開アドバイザーとして任用しており、それに伴う人件費や部活動指導員の活動時間の増加に伴う報酬額の増加が大きな要因となっている。

(９) その他

○花井会長

色々な立場の方が集まっていますので、情報共有したいことや何か周知したいことがあれば、ぜひ発言していただきたい。

○花井会長

それでは、情報提供であるが、８月３１日（月）から９月２日（水）まで北翔大学で日本で一番大きなスポーツの学会が開催される。初日はコンベンションセンターでスポーツ庁の河合純一さんがシンポジウムを開催し、９月１日から２日は江別に色々なスポーツの研究者が集まるので、江別の環境を全国のスポーツ関係者に見ていただく良い機会になる。

○事務局（スポーツ課主査）

スポーツに関する話題について2点お伝えさせていただく。

一点目は、本市出身のプロゴルファーの片岡尚之選手についてである。

片岡選手は、昨年、日本オープンゴルフ選手権で優勝され、今年はマスターズや全英オープンといった海外メジャー大会に出場するなど世界の舞台で活躍をされている選手であるが、このたび9月3日（木）13時30分に市役所を表敬訪問されることとなった。

当日は、市役所正面玄関にて市民の皆様や職員によるお出迎えを予定しており、すでに市のホームページ等で周知をしているが、委員の皆様にもこの場をお借りして周知させていただく。

次に二点目であるが、来月から愛知・名古屋を中心に開催される「アジア競技大会」についてである。アジア版のオリンピックと言われる大会であるが、本市にゆかりのある選手としては、江別市出身の女子バレーボールの塩出仁美選手、とわの森三愛高校出身で女子バドミントンの松本麻佑選手、立命館慶祥高校出身で陸上の小池祐貴選手が出場をする予定である。

本市としても、地元にゆかりのある選手たちが世界の舞台で活躍できるよう、市民の皆様とともに声援を送ってまいりたいと考えている。

○事務局（スポーツ課主査）

最後に、今年度の江別市スポーツ推進審議会についてであるが、全部で2回の開催を予定しており、次回、第2回目の審議会は2月頃を予定している。時期が来たら、改めてご案内させていただく。

(10) 閉会

○花井会長

以上で、令和8年度第1回スポーツ推進審議会を閉会する。

（11時10分終了）